

4/4 ルカの福音書 24 章 1-12 節「主は、よみがえられたのです」

小池宏明牧師

教会にとって、イースター（復活祭）は、キリストが誕生したクリスマスよりも重要な祭日（祭り）である。それは、新約聖書が書かれた時代から変わりにくく祝われて来た。実は、教会の歴史の中では、復活祭よりも 300 年ほど後になって、降誕祭（クリスマス）が制定されたことからわかる。キリストの復活なしに、ご降誕や十字架の話をして、意味が無い。復活がなければ、福音（良い知らせ）ではないのだ。

* 確かによみがえられた主

復活の朝、いち早く、イエス様のもとに駆け付けた女性たちは驚き、悲しみ、途方に暮れる。それは、主イエスの亡骸が無くなっていたからである。ところが、そんな彼女たちに、御使いが現れて、主イエス様が語っておられた御ことばを思い出そうように導く。（5～8 節）主の御ことばを思い出することが大切である。主イエス・キリストは、今も生きておられるお方だ。過ぎ去ってしまった過去の人ではない。主イエス様は生きておられるお方なのだ。

* 現実的な弟子たちの反応

「主は確かによみがえった」と知って、伝え廻っている女性たちの姿とは対照的に、男たちの反応は、残念なものだった。（11 節）使徒たちは「女たちの気が変になっている、おかしくなっている」と考えた。約束のみことばを思い出した人と、思い出せない人、そこには雲泥の差がある。大切なことは、自分の知恵や常識を判断基準にしないで、謙って御ことばを確認することである。

* 私たちと主の復活との関係

主イエス様の復活と今日に生きる私たちとは、どんな関係があるのだろうか。ローマ人への手紙からパウロの言葉を取り上げる。8 章 11 節「8:11 イエスを死者の中からよみがえらせた方の御霊が、あなたがたのうちに住んでおられるなら、キリストを死者の中からよみがえらせた方は、あなたがたのうちに住んでおられるご自分の御霊によって、あなたがたの死ぬべきからだも生かしてください。」

キリスト者（クリスチャン）は、キリストの復活のからだの一部とされている。確かに私たちの肉の体はやがて朽ちていく。しかし、イエス・キリストを死者の中からよみがえらせた父なる神様は、私たちの死ぬべき体を、キリストと同じよみがえりのからだに創り変えて生かしてくださるのだ。

私たちの死や、死後のことに関する重要な問題は、イエス・キリストのよみがえりの事実なしに解決の道はないのである。